

感染症情報 10月10日～16日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	707例(堺市 31例)
②RSウイルス感染症	553例(堺市 48例)
③おたふくかぜ	357例(堺市 34例)
④溶連菌感染症	232例(堺市 9例)
⑤手足口病	152例(堺市 9例)

が報告された。

感染症報告数は前週より9.9%増の2,313件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、溶連菌感染症、手足口病の順であった。2位のRSウイルス感染症は府下で前週比0.1%減、堺市で6.7%増というところで、流行が続いている。おたふくかぜは府下では前週比8%減も、堺市では42%増であった(24例→34例)。4位の溶連菌感染症は府下で19%減、堺市では前週16例から今回9例に減少していた(44%減)。手足口病が府下では前週233例から今週152例で35%減、堺市では前週8例が今週9例となっている。

国立感染症研究所がまとめた10月3日から9日までのマイコプラズマ肺炎の全国の報告数は1999年の調査開始以降、過去最高レベルとなっていると報道された。大阪府のランクには反映されていないが、当科周囲でも多くみられている。

久しぶりに麻疹の報告がなくなった。

風疹の報告もなかった。